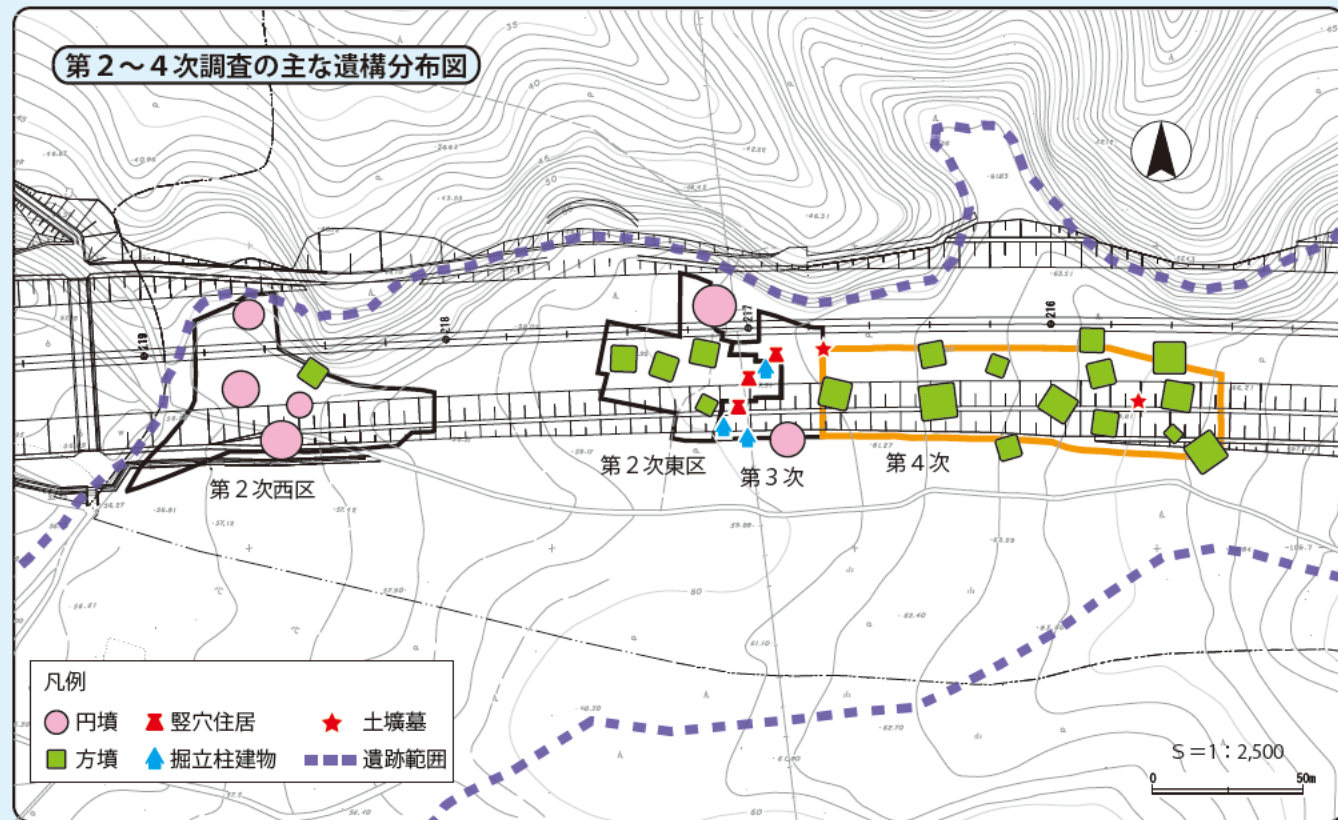


北山C遺跡

第4次発掘調査現地説明会



調査の成果

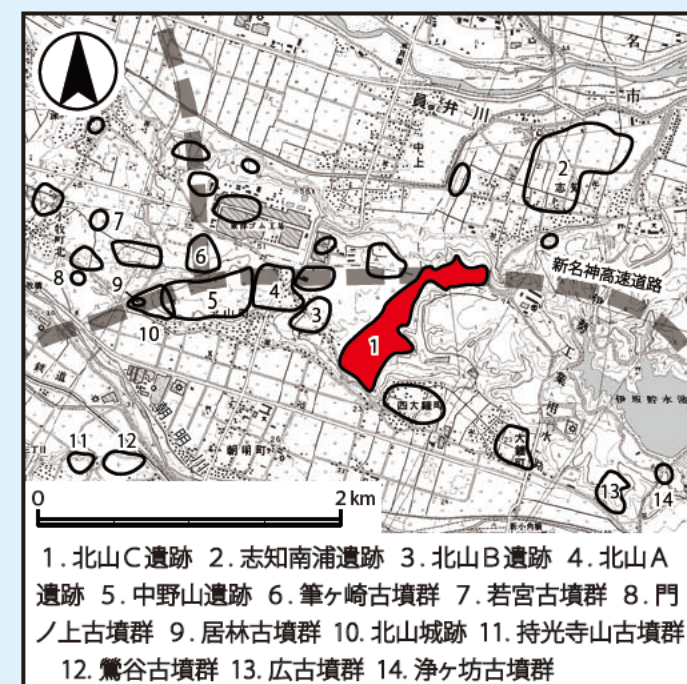
- 第4次調査では、古墳時代中期（今から約1,550年前）の古墳が13基見つかり、平成24年度の第2次調査と平成25年度上半期の第3次調査を合わせると、24基の古墳群になりました。第4次調査の北側や東側にも古墳の存在が想定されるので、その数はさらに多くなるでしょう。
- 古墳の墳丘は消滅していましたが、残っていた周りの溝（周溝）の形から、円墳（平面形が丸い古墳）と方墳（平面形が四角い古墳）が混在する古墳群であることがわかります。
- 唯一残っていた古墳8の埋葬施設によって、細長く掘った穴に木棺を直接、安置して埋める埋葬方法であったことがわかりました。
- 遺物としては、古墳8の埋葬施設から鉄製の刀子（小刀）、同じ時期の土壌墓から鉄製の刀・斧、古墳の周溝から須恵器の甕・高杯・把手付椀、土師器の甕・高杯などが出土しています。

北山C遺跡第4次発掘調査 現地説明会資料

（新名神高速道路発掘調査ニュース「新あさけのいにしへNo.18」）

三重県埋蔵文化財センター 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503
TEL:0596-52-1732 / FAX:0596-52-7035 <http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/maibun/>
調査研究3課 四日市整理所 〒512-8064 三重県四日市市伊坂町126-1
TEL:059-363-3195 / FAX:059-363-3196

2013年12月15日

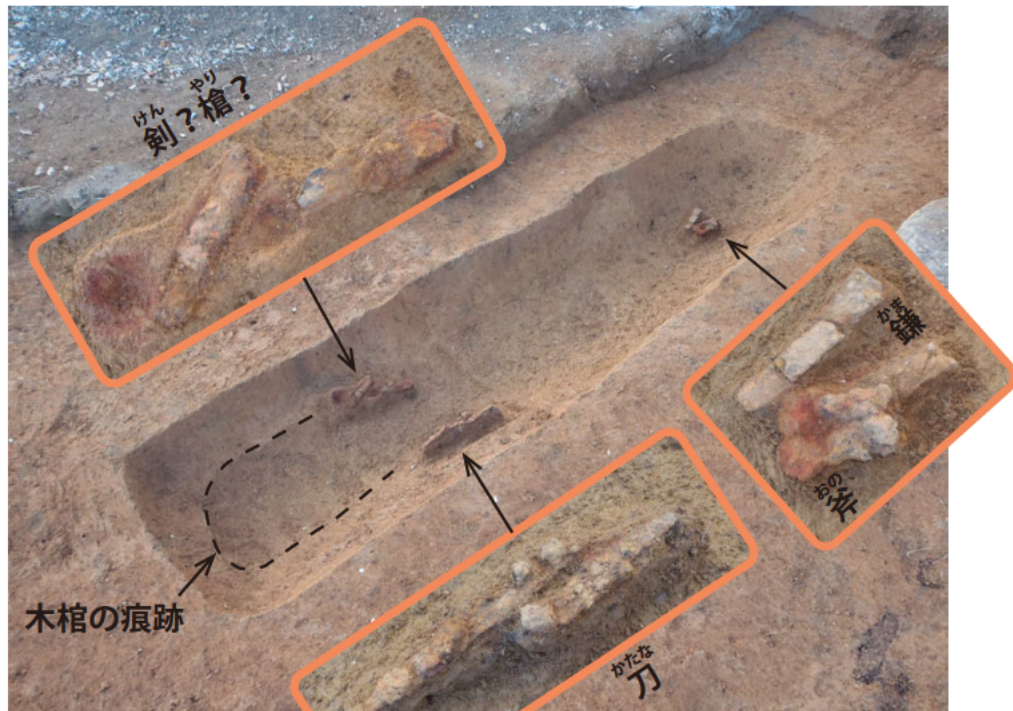


北山C遺跡は、員弁川右岸の標高約60mの台地上に位置し、四日市市と桑名市にまたがる遺跡です。昭和40・50年代に四日市市域で行われた調査の結果から、これまで弥生時代後期と古墳時代後期の集落跡と考えられてきました。

平成24年度から3回にわたる調査によって、新たに古墳時代中期（今から約1,550年前）の古墳が24基見つかりました。古墳の墳丘は消滅し、大半は周溝ですが、埋葬施設が残っていたものもありました。

また、同じ時期の土壌墓（墳丘を伴わない墓）も見つかりました。

平成25年12月15日
三重県埋蔵文化財センター



北側の見晴らし（第2次調査東区付近より）



埋葬施設からとうすが出土

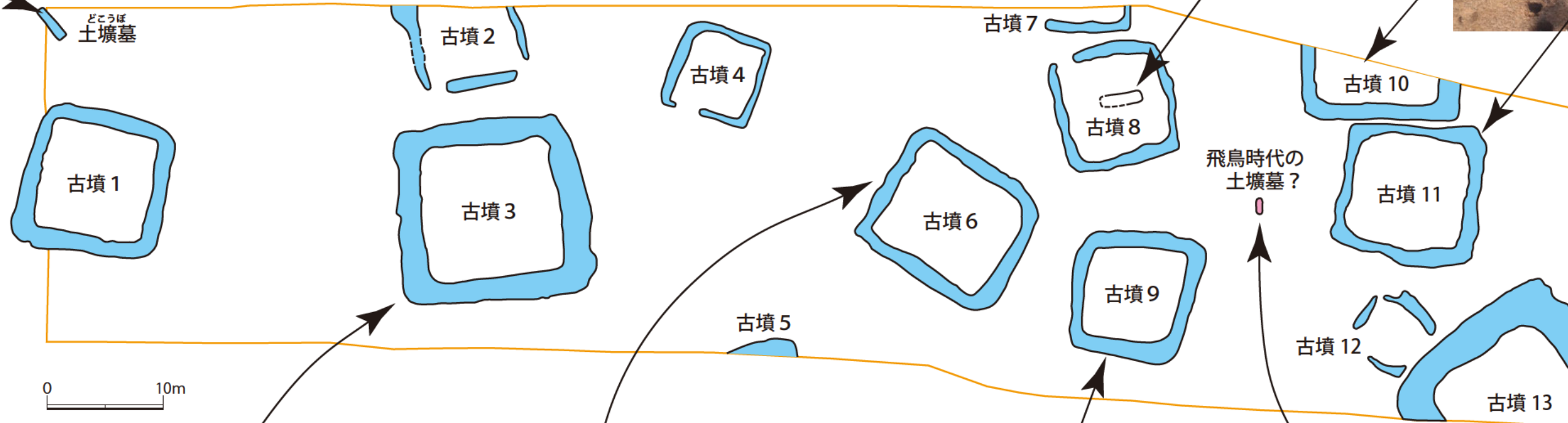


遺構検出初日から古墳の周溝発見！
2基の方向がきれいに揃っています。



墳丘をともしない
どこうぼ
土壙墓から
鉄製品出土

どこうぼ
土壙墓



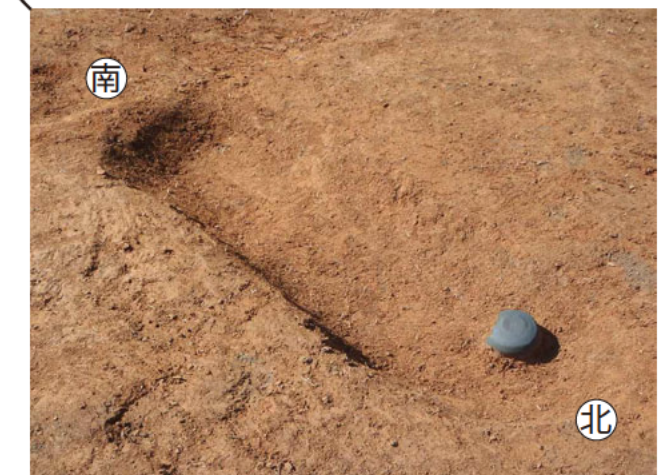
一番大きな古墳 掘りあがりました！



周溝からバラバラになった須恵器の甕



周溝に落ち込んだ土師器の台付甕



小さな穴ですが、北を意識しているようです。